

で非常に特殊化を示し、これら4種の類縁性の薄いことを示している。以上のことから日本産のノキシノブ属は系統的に異なる2群より成り立っているように思われる。そして $x=25, 26$ の群は盛んに種分化の起りつつある群であり、他方 $x=35$ の各種はかなり特殊化のすすんだものであると考えられる。鱗片、側糸の原始的と思われる形質の多くは $x=35$ の種類、特にコウラボシ、トヨグチウラボシのように高倍数体の種に観察された。 $x=25, 26$ の群でも最高の染色体数を持つツクシノキシノブの鱗片、側糸に原始性が観察された。

○台湾産ミヤマハタザオについて (井上賢治) Kenji INOUE: *Arabis lyrata* L. subsp. *kamtschatica* (Fisch.) Hultén in Formosa

台湾のナズナハタザオは1908年に *A. taraxacifolia* として早田文蔵博士により報告され、後に、区別され *A. morrisonensis* として1911年に記載発表された。この種については、伊藤武夫が台湾植物図譜に、日本のミヤマハタザオに似ているが、毛の多少、葉の切込などの点を違いにあげている。今回台湾のナズナハタザオと、日本産のミヤマハタザオを比較してみたところ、ミヤマハタザオは毛を密布するものから少ないもの、葉の切込は浅裂のものまで、広い変異をみせ、台湾のナズナハタザオもその範囲に入るものであるという考えに到った。従って、北アメリカから日本までの分布域が台湾にまで広げられることになる。尚、お世話になった東京農大、植物学研究室の先生方、及び、東京大学、総合研究資料館の先生方にお礼申し上げます。

(東京農業大学植物学研究室)

***Arabis lyrata* L. subsp. *kamtschatica* (Fischer) Hultén, Fl. Aleut. Is. 20 (1937).**

A. morrisonensis Hay., Mat. Fl. Form. 29 (1911). **syn. nov.**

A. taraxacifolia (non Anders.) Hay., Fl. Mont. Form. 49 (1908).

Hab. Formosa: Mt. Morrison (S. Nagasawa Nov. 3, 1905 KYO, T. Kawakami et U. Mori Oct. 20, 1906 No. 2234 TI, Chien-chang Hsu et R. Hsu Sept. 29, 1967 No. 4018 TI, Chien-chang Hsu May 17, 1969 No. 5342 TI, T. Nakamura July 10, 1968 No. 125, S. Masuda July 9, 1968 No. 107, S. Matsumoto July 18, 1970 No. 1232). Mt. Sylvia (T. Nakamura July 22, 1968 No. 466 TI, S. Masuda July 22, 1968 No. 465 TI, K. Inoue July 21, 1968 No. 464 TI). Pref. Nan-tou, Mt. Neng-Kao (M. Tamura et H. Koyama Aug. 14, 1964 No. 245419 NSM). Pref. Ilan in route from Nan-shan (Piyanan) to Mt. Chung-yangchien, along River Matakotou (M. Tamura et H. Koyama Aug. 28, 1964 No. 245448 NSM).

Distr. N. America, Alaska, Aleutian Islands, Kamchatka, Sakhalin, Japan, Korea, and Formosa.